



羽沢横浜国大駅周辺 地域まちづくりプラン(素案)

令和6年1月
羽沢横国まちづくり協議会

羽沢・常盤台に住む人々が地域に愛着を持って暮らさせることを目標に 地域まちづくりプランを作成しました

地域まちづくりプランの 5つの視点

羽沢横浜国大駅周辺地域の開発が進む中、この地域の住民が安全で安心な暮らしと住民同士の繋がりを大切にし、今ある自然環境を保ちつつ、いつまでも住み続けたいまちづくりを目指していく指標とします。特にこの地域のまちづくりでは下記の5つの視点を大切にしています。

- ①住民の皆さんのが地域への愛着を育むまちづくり
- ②新駅開業による駅前の開発に伴うまちづくり
- ③横浜国立大学との連携によるまちづくり
- ④みどり豊かな自然環境と丘陵地の特徴を活かしたまちづくり
- ⑤行政区が違う2地区が共同で取組むまちづくり

地域まちづくりの4つのテーマ

1 安全安心なまちを目指して

道路の安全、交通対策、防犯力の向上など

2 豊かな街並みや景観をつくる

建設時の事前協議、緑化の促進、ごみ問題など

3 多様な交流が生まれる地域

あいさつロードの設置、新住民との交流、
地域力の向上、子育て支援など

4 横浜国立大学との連携を更に深める

地域参加、隣接するメリットなど

羽沢横国地区の成り立ち

2

羽沢横国地区の成り立ち

当地区は横浜駅から西に約3km～4kmの位置にあり、羽沢地区は、古くは武州橘樹郡羽澤村といい、安政2年3月(1855年)の家数は62軒で住民337人の農村地帯でした。水田は少なく、大麦・小麦・栗・大豆・稗・ソバなどが栽培される畠勝りの地域でした。

明治22年(1889年)市町村制
施行の際、橘樹郡小机村大字羽澤

となり、明治25年(1892年)に
たちはなぐんじろさとむらおおあざはざわ
橘樹郡城郷村大字羽澤と改称され
、昭和2年4月1日(1927年)の横
浜市編入の際、神奈川区羽澤町と
なり、平成18年10月23日(2006
年)町南部での住居表示施行によ
り、羽沢南一丁目～四丁目が羽沢
町から分離新設されました。

地名研究で「ハザワ」の意味は不明ですが、「端沢」(沢の片側の意)が転じ、「羽沢」になったのではと考えられています。

常盤台地区は名門ゴルフ場「程ヶ谷カントリー倶楽部」の周りに昭和20年代から住宅が建ち始めた地域です。程ヶ谷カントリー倶楽部は旭区に移転し、その跡地に昭和48年から横浜国立大学が移転してき

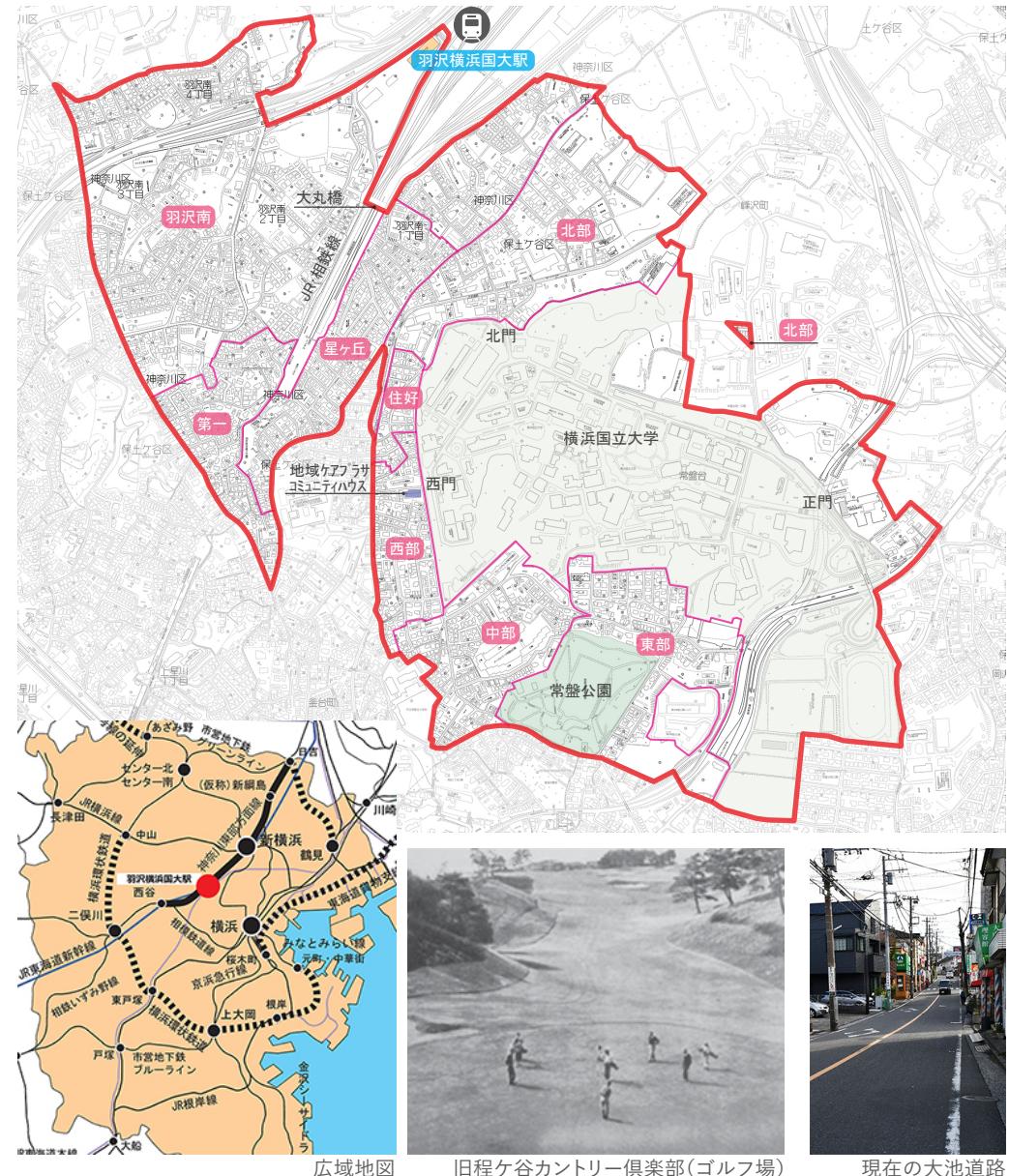
ました。常盤台地区はそれを取り囲む形で道路や住宅、商店が整備されました。横浜駅中心部に近く学生も一定数おり、住民の年齢構成は保土ヶ谷区の中でも若い層が多い地区です。

鉄道の駅からは必ず坂道を登らなくてはなりません。大池通(バス道)にあった商店街がなくなり、その活気はなくなりました。

平成21年(2009年)、横浜国立大学西門前に地域ケアプラザ・コミュニティハウスができ、地区の会議や催しが、とても行きやすくなりました。また、横浜国立大学との連携が生まれ、今は数多くの連携事業が進んでいます。

令和元年(2019年)11月30日に相鉄・JR直通線が開通し、「羽沢横浜国大駅」が開業しました。令和5年(2023年)3月18日には東横線との相互乗り入れが実現し、駅前には高層住宅や商業施設が整備され今後ますます活性化が期待されます。

地域まちづくりプランの対象区域



〈地域まちづくりプラン作成の背景〉

羽沢横国まちづくり協議会設立前の地域の状況

対象地域である常盤台地区5自治会と羽沢地区3自治会は経済成長期に田畠や雑木林の丘陵地を開発した新興住宅地です。

昭和48年(1973年)に横浜国立大学が開校し、昭和54年(1979年)に横浜新貨物線羽沢駅が開業しました。しかし最寄り駅は遠く、近くに商業施設もなく、陸の孤島と称される地域でした。

平成20年(2008年)に「羽沢駅周辺地区まちづくり協議会」が羽沢駅周辺地域の地主・自治会関係者24名で発足し、「羽沢駅周辺地区プラン」を作成し横浜市へ提出し、平成27年(2015年)「羽沢駅周辺まちづくりガイドライン」を作成して今後の開発基準としました。

常盤台地域ケアプラザ&常盤台コミュニティハウスの開所を前に、平成20年(2008年)から横浜国立大学建築計画研究室の大原教授の指導の基に、「常盤台地域ケアプラザを契機とした老後も住み続けられるまちづくりワークショップ」を年に4~5回開催してきました。

テーマは、防災マップ・防犯・地域の繋がり・地域の人材活用・地域の福祉施設・空家・ホームシェア・バリアフリー等多岐に亘りました。

平成30年(2018年)、新駅の開業を期して駅周辺地域の常盤台地区と羽沢地区が共同でワークショップを重ね平成31年(2019年)2月、羽沢横浜国大駅周辺地区的バリアフリー基本構想「素案」を横浜市へ提出し、横浜市はバリアフリー基本構想を策定して実施へ踏み出しています。このバリアフリー活動で、駅周辺地域のサインづくりのワークショップに着手しました。

羽沢横国まちづくり協議会設立の背景

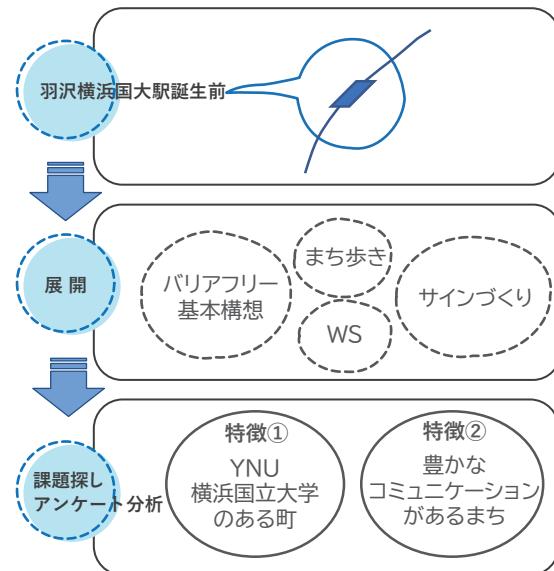
令和元年(2019年)11月に、相模鉄道とJR線を繋ぐ東部方面線が開通し、それに伴い、羽沢横浜国大駅が開業しました。この新駅の誕生により、交通の要となるだけなく駅前のプロムナードや高層マンション・商業施設の開発が計画され新住民の誕生や周辺地域からの集客など賑わいが生まれようとしています。

これを機に、従来から活動していた「羽沢駅周辺地域まちづくり連絡会」と「横浜国大ワークショップ」の流れをうけて「まちづくり」の機運が高まり、「羽沢横浜国大駅周辺地域の愛着を育てるサインづくり推進会」が立ち上がりました。

この地域は新興住宅地で地域への愛着が薄い為、地域への愛着を育む狙いから地域を知つてもらう活動としてサインづくりをスタートさせました。坂や道に新たに名称を付けサインを設置する他、特産品や歴史の紹介サイン、重要施設を案内する地図付きサイン等の設置を開始しました。

その後、令和4年(2022年)5月に長い会の名称を「羽沢横国まちづくり協議会」に短く改称し、サインづくりだけでなく様々なまちづくりの課題を「住民アンケート」や「まち歩き」「住民との意見交換会」等で、深く解決のための方策を定めた『地域まちづくりプラン』を作成しました。

これまでの取り組み（プラン策定まで）



これから取り組み（プラン策定後）

地域まちづくりプラン

地域主体で取り組む方策

- 1 安全安心なまちを目指して
- 2 豊かな街並みや景観をつくる
- 3 多様な交流が生まれる地域（豊かなコミュニティの形成）
- 4 横浜国立大学との連携を更に深める

目標

愛着を
育てる
まちづくり

まちづくりの方針を探す

歩いて暮らせるまちへ

地区の特徴と課題

地区の特徴

羽沢地区

羽沢地区は、全11町内会のうち、羽沢星ヶ丘・羽沢第一・羽沢南の3町内会が当協議会地区の対象エリアとなっています。

羽沢横浜国大駅にも近く、横浜、上星川に行くにもバスの本数も多く、利便性は高い地区です。畑や樹林地を切開いてできた新興住宅地で緑も多く静かで、とてもどかな地域です。羽沢全体は都市型農業が盛んで、いたるところに農家直営の野菜直売所があり、いつでも新鮮な野菜を手に入れることができます。

3町内会は、羽沢地区では一番端に位置し、近年住宅地の軒売や分割が進み、若年世帯が増加し、子供も増加傾向にあります。地区内に大小の公園が3ヶ所あり、特に長谷第3公園は広く夏まつり、運動会等幅広く活用されています。

令和6年(2024年)秋頃、駅前に商業施設や情報発信・地域交流拠点が整備され、生活の利便性が大幅に向上するとともに、地域全体が活性化しました。

常盤台地区

常盤台地区は、全10町内会の内、東部自治会・西部自治会・中部自治会・北部自治会・住好自治会の5自治会が対象エリアです。

学生も多く住み、通学路にもなっています。この地域は地下鉄が開通したことにより、バス本数が減り不便になった面もあります。羽沢横浜国大駅が出来たものの、当地区からは遠く、利用する住民は多くはありません。

釜台と常盤台の「二つ台商店街」に、多くの店舗が有りましたが、車社会の進展とともに店舗数は大幅に減少し住民は和田町近辺を利用せざるを得ず、買い物は土地の高低差が大きく不便な状況が長年続いているます。

近年、建売住宅も開発され新しい世代の住民が暮らす町になってきました。横浜国立大学の学生用アパートも、多く占めています。

常盤台郵便局、常盤台地域ケアプラザ、常盤台コミュニティハウス等が有り、地域の交流・憩いの場になっています。その他、特別養護老人ホームや専門学校、保育園や幼稚園などもあります。

地区の課題

道路について

地区内の多くの道路は幅員が狭く、歩道もなく危険です。緊急車両や救急車が入れない所もあり、朝夕には、環状2号線への抜け道となる場所もあります。勾配の急な坂が多くベビーカーや車椅子の通行にも支障があります。

区境道路はスクールゾーンですが、スピードを減速しないマナー違反者が多いです。

商業施設について

大きなスーパー・マーケットやコンビニなど商店が少なく日常生活に支障があります。

居場所

“居酒屋風大人の居場所”(たまり場)はありません。若い世代の転入者が多くなったことに伴い子供も増えていますが、子供の居場所も少ないです。

コミュニティ

若い世代が増えていますが、町内会活動に無関心な人も多くいます。

その他

新駅開設により人が多くなり治安の悪化が予想されます。ワンルームマンションでのごみ出しルールが守られていないことや、通りすがりの人がごみを捨てたり、粗大ごみの放置も見られます。道幅が狭くごみ箱が置けない所はカラスに荒らされています。

道路について

地区内の道路は狭く歩道がほとんどなく、危険と隣り合わせです。和田町・三ツ沢方面に向かう車いすやベビーカーは歩道が狭い為に通行できません。車両のすれ違いができない場所では渋滞が発生し、発災時の緊急車両や救急車が入れない所もあります。

地区内には私道も多く、未舗装の場所もあります。

子どもたちの居場所やたまり場がなく、道路上で遊ぶしかなく危険です。

スクールゾーンについて

道幅が狭くガードレールもありません。危険交差点が3か所ありますが、車は徐行せず、電柱が多く歩行を阻害しています。

バス停

「釜台住宅第1」は5叉路部分にあり、かつ通学路でもあるため危険です。「ひじりが丘」も上星川方面バス停歩道は40センチしかありません。

商業施設

地区内に商業施設がなく、生活に不便です。

コミュニティ

住民間のコミュニケーションが希薄になり、近所付き合いがほとんどない状況が見られ、住民の顔が見えなくなりつつあります。

横浜国立大学に隣接し、学生にも地域の活動に参加してもらいたくても交流の場や機会がありません。

少子化に伴い、子供会ができにくく状況になりつつあります。

住好自治会には自治会館がなく、居場所が不足しています。

その他

戸建て住宅も多いので庭の緑地はあるが、半面繁茂する木々・草もあります。

ワンルームのアパートが多い為、ごみ出しのルールを守らない人や集積場所のごみ散乱問題などが発生しています。

世代交代や建売開発で、緑が減少し、住宅の密集度が上がり街並みに余裕がなくなっています。

地区内の防犯上、夜暗い場所に街灯を設置したり、防犯カメラを設置したい場所があります。

羽沢横国まちづくり協議会

1 まちづくり協議会の目的と役割

羽沢横国まちづくり協議会は、地域まちづくりの主体として会員相互が協力するとともにサインづくり等により「羽沢横浜国大駅」周辺地域の安全で快適な魅力あるまちづくりの推進を目的としています。

- まちづくりに関する企画・立案
- まちづくりに関する具体的施策の実施
- まちづくりに関する地域住民の意向等調査

2 まちづくり協議会の構成と運営方法

(1)会員:まちづくり協議会活動区域内の

住民、企業、諸団体等

(2)運営方法:会則に則り運営します。

(定例会及びワーキンググループ会議は
原則月1回、ワークショップは年4~7回)



協議会風景

○ 経緯

- 令和元年 1月 「羽沢横浜国大駅周辺地域の魅力あるまちづくり推進会」発足
- 令和元年 7月 ヨコハマ市民まち普請事業第一次コンテストで落選
- 令和元年11月 「羽沢横浜国大駅周辺地域の愛着を育てるサインづくり推進会」発足
- 令和4年 5月 「羽沢横国まちづくり協議会」に名称変更

○ 会員

- 活動区域内の連合町内会、自治会、各種団体、施設、企業、店舗等の代表
- 土地・建物を所有する者
- 地域まちづくりの活動に関心のある者

○ 定例会構成員

- 連合町内会代表
 - ・常盤台地区連合町内会
 - ・羽沢地区自治連合会
- 横浜国立大学
- 常盤台地域ケアプラザ
- 常盤台コミュニティハウス

○ 自治会・町内会代表

- | | |
|----------|----------|
| 保土ヶ谷区 | 神奈川区 |
| 常盤台東部自治会 | 羽沢星ヶ丘自治会 |
| 常盤台西部自治会 | 羽沢第一町内会 |
| 常盤台中部自治会 | 羽沢南町内会 |
| 常盤台北部自治会 | |
| 常盤台住好自治会 | |

○ 役員(総会において選出)

会長:1人 / 副会長:1人 / 会計:1人 / 監事:1人

広報グループ

ワークショップ
グループ

サイン製作・設置
グループ

● 各自治会・町内会

● 横浜国立大学

● 常盤台地域ケアプラザ

● 常盤台コミュニティハウス

○ 協力団体

- ・常盤台地区連合町内会
- ・羽沢地区自治連合会
- ・常盤台地区社会福祉協議会
- ・羽沢地区社会福祉協議会

● 常盤台ワークショップ

- ・地域住民
(常盤台地区、羽沢地区)
- ・横浜国立大学(教授、学生)
- ・常盤台地域ケアプラザ
- ・常盤台コミュニティハウス

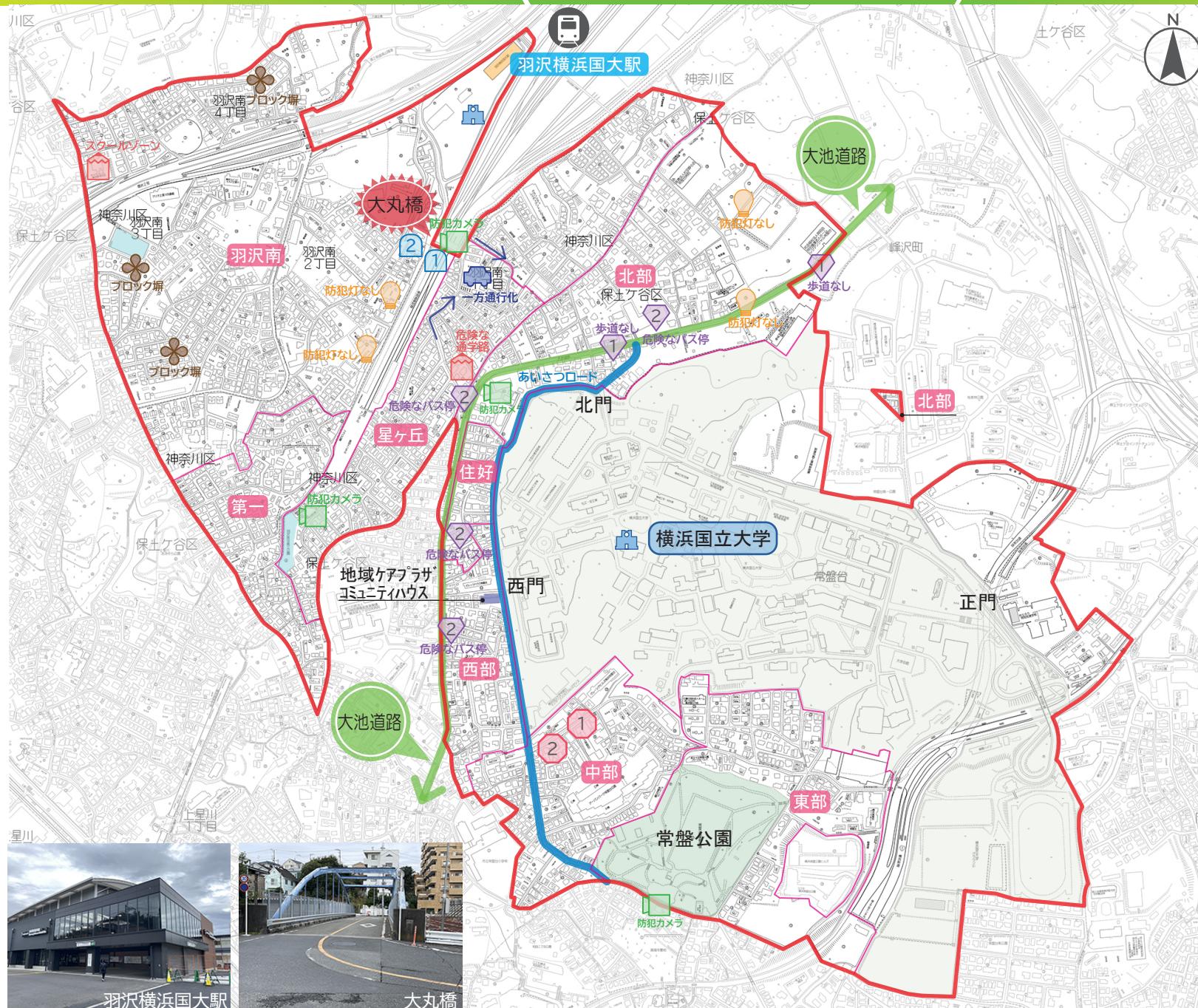
○ 支援

行政(横浜市都市整備局、
保土ヶ谷区、神奈川区)

まちづくり専門家

(横浜市まちづくりコーディネーター)

課題と方策マップ*



地域の課題探しアンケートとまちづくりワークショップ、まちづくり協議会で出された地域課題と方策

凡例

- ① 私道の整備が必要
- ② 私道の公道化
- ① 歩道が必要
- ② 危険なバス停
- ① 大丸橋：通行に支障がある
- ② 大丸橋：人道橋
- ① 防犯灯がほしい
- ② 防犯カメラがほしい
- ③ 危険なブロック塀
- ④ 危険な通学路
- ⑤ 一方通行化
- ⑥ 横浜国立大学学生の地域活動参加及び連携
- あいさつロード



〈1〉安全安心なまちを目指して

1-1 道路の安全

地域の課題	地域主体で取り組む方策	緊急性 重要性	期間 可能性 実現性
バリアフリー	当地区では令和4年(2022年)5月に地域での提案書をきっかけに横浜市が「バリアフリー基本構想」を策定し特定事業に取り組んでいるが、バリアフリー基本構想で特定事業に該当しない場所についても通行や安全な利用に支障がある箇所がある。	交通量が多い複雑な形状の交差点のまちの危険な個所について、バリアフリー警告サイン(注意喚起につながるサイン等)を設置・維持管理する。土地所有者等から合意を得た上で、助成制度を活用しながら予算の範囲内で設置する。	◎ ◎
私道の公道化や舗装の促進	・ 地区内には多くの私道があるが、一部は未舗装であり、雨の日などは歩きにくい。	① 私道の整備については、所有者に協議を行い、承諾された場合には、助成制度等の活用について行政と協議を行う。 ② 公道化できる基準を満たす私道については、所有者に対して公道化するようお願いをする。所有者及び周辺地権者の合意を得られた場合には、「横浜市道の認定、廃止及び区域変更基準」を踏まえた上で公道化について行政と協議を行う。	◎ ○ ◎ ○
大池道路の歩道確保 電柱移設 バス停の安全	・ 大池通りにある3か所のバス停は待合部分がなく危険なため、待合部分を広げたい。 ・ 車両の交通量が多いが歩道がなく危険である。 ・ 歩道に電柱があり通行に支障がある。	① 住宅等の建て替えの機会などに民地側へのセットバックについて、土地所有者にお願いをする。セットバックに同意してもらえる場合には、歩道整備について行政と協議を行う。 ② 電柱の民地への移設、民地の軒下やセットバックした壁面を利用する電線の迂回などについて、土地所有者へ相談する。承諾がもらえた場合には、東京電力やNTT、弱電事業者等関係者と協議を行う。また、別道路ルートとして移設が可能か、東京電力等に協議を行う。	◎ △ ◎ △
大丸橋の安全化	・ 常盤台地区と羽沢地区の結接点で羽沢横浜国大駅から横浜国立大学へのルート上にあり、歩行者が多いが歩道がなく通行に支障がある。	① 信号機の新設による交互通行の実現に向け、周辺住民で意見交換を行い、交互通行に関する地域の合意が形成された場合には、警察や行政機関と協議を行う。 ② 大丸橋の架け替え、又は跨線人道橋の設置について、実現を目指し継続的に行政に働きかける。	◎ ○ ◎ △

〈1〉安全安心なまちを目指して

1-2 防犯力の向上

夜を明るく
(防犯灯、門灯を
増やす)

プロジェクトシート 3

防犯カメラの 設置

ブロック塀の 改善

1-3 交通対策

スクールゾーンの
安全性向上

一方通行化

コミュニティバス

駅への連絡路

地域の課題

- 暗い場所では、ちかん、車上荒らし、空き巣が起きている。
- 住宅地内では道路も狭く、暗い場所があり、夜歩きにくい。

- 地区内を地域の人が監視するだけでは防犯対策として限界がある。

- 5段以上のブロック塀は敷地の中が見えにくいため侵入者に気づきにくい。
- ブロック塀が地震時に倒壊すると避難路を塞いでしまう可能性がある。
- 交差点や曲がり角では見通しが悪く危険である。

- 区境道路は幅員が狭く、歩行者の安全な通行に支障がある。

- 大池道路から羽沢横浜国大駅や環状2号線への抜け道になっていて朝や夕方は住宅地の中を多くの車両が通過している。道幅が狭く交互通行ではすれ違えない場所もある。

- 高台にある住宅地のため坂が多く、地域の高齢者等は買い物や駅までの移動に苦労している。
- 公共交通機関について、常盤台地区は大池道路、羽沢地区は池の谷戸通りのバスしかなく不便である。

- 大池道路から羽沢横浜国大駅への車両交互通行可能な広幅員の道路がないため住宅地の中を多くの車両が通過している。

地域主体で取り組む方策

人家が少なく、人通りの多い暗い場所については、各自治会、町内会と連携し、防犯灯の設置申請を行う。

門柱や外構への照明器具の設置や点灯のお願いを協議会で行う。

防犯意識の向上に向けて視覚的にアピールするため、自治会や町内会で常時行われている防犯パトロールや、犬の散歩時に行う「わんわんパトロール」を継続する。
※わんわんパトロール：犬を飼っている人へ、散歩時には防犯と書かれたものを身に着けるように協力依頼をする。協力いただける方には、防犯関係のグッズを提供する。

危険性が高い場所については、自治会町内会と連携し、設置場所の土地所有者、周辺住民への承諾を得た上で、助成制度等を活用し防犯カメラを設置する。

新設のブロック塀を設ける場合は3段までとし、上部はフェンスや植栽等とするように、所有者へお願いをする。

交差点や曲がり角については、ブロック塀を撤去し見通しがよい状態になるよう所有者にお願いし、助成制度等を活用しながら、改善する。

区境道路は既に時間規制しているが地域やPTA等と協力して「見守りサポーター」を増やしていく。

「スクールゾーン連絡協議会」と解決策を協議し、できることに取り組む。

西釜台のバス停から大丸橋の交差点への下りと、交差点から大池通り(エクシブグループ南関東支店付近)までのルートをそれぞれ一方通行の実現を目指し、周辺住民と意見交換を行い、一方通行に関する地域の合意が形成された場合には、警察や行政機関と協議を行う。

地区内全域と主要駅を循環するコミュニティバスについてはバス事業者や福祉車両を保有する福祉関係法人等と協議しながら実現を目指す。その場合、地区内のマンパワーを生かす「コミュニティビジネス」として継続可能な仕組みづくりに取り組む。

大池道路から羽沢横浜国大駅方面を結ぶ広幅員の道路の設置について、実現を目指し継続的に行政に働きかける。

緊急性
重要性



期間
可能性
実現性



	地域の課題	地域主体で取り組む方策	緊急性	期間可能性実現性
			重要性	実現性
建設時の事前協議 プロジェクトシート 5	<ul style="list-style-type: none"> 地区のまちづくりに関する目標や守ってもらいたいことを、建売住宅や宅地造成の際に伝える手段がない。 	<p>地区内で建築や大規模なリフォームを行う場合には、協議会に対して「建築概要書」の事前提出及び「まちづくりプラン」に定める以下の内容に関する協力をお願いする。また、近隣地区の不動産業者にまちづくりプランの周知をお願いする。</p> <p>◆協議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 工事中の留意事項(工事時間、駐車等) 共同住宅のごみ集積場所設置 新設ブロック塀のフェンス化 (新設のブロック塀を設ける場合は3段までとし、上部はフェンスや植栽等) 後退した部分を道路として利用することの周知 緑化の推進 公共的な要素の高いベンチの設置やサイン設置の協力 自治会・町内会への入会 門柱や外構への照明器具の設置や点灯のお願い 	◎	◎
緑化の促進と豊かなまちづくり プロジェクトシート 6	<ul style="list-style-type: none"> 横浜国立大学と常盤公園以外にはまとまった緑地がなく季節感ややすらぎを感じにくい。 住宅地内には高いブロック塀が多く庭木が見えない。 羽沢地区は畠や緑地が多く、常盤台地区も高台で眺望の良い場所もあるが活かされていない。 地区内に管理されていない庭木や樹木がある。 	<ol style="list-style-type: none"> 地区内に連続した緑を作り出すため、土地所有者へ道路側の敷地部分への緑化についてお願いする。 地区全体に花や香りを楽しめる樹木を植えたり、プランターを設置することを啓発する。 畠の景観やシクラメン通り等、特徴のある通りを大切に守り育てるため、啓発活動を行う。 緑が豊かな場所、高台で眺望の良い場所について、土地所有者等と協議を行い、富士山の見える場所等へベンチのある憩いの場として整備・維持管理を行う。 常盤台地区で行っている「ありが隊※」の取組や剪定業者等の紹介など、民地の庭木の適切な管理について啓発を行う。 「ありが隊」:常盤台地区で行われている地域の軽作業をしているボランティア組織 	◎	◎
ごみ問題	<ul style="list-style-type: none"> ごみ出しルールが守られずマナーも悪く、残されたりカラスの被害も多い。 他エリアからのごみ捨ても多い。 犬や猫の粪害もある。 	<ol style="list-style-type: none"> 居住者に向けたごみの出し方やマナーの周知や案内を行う。外国人居住者へは英語版を案内するなど、誰もが分かりやすい説明を行う。 野良猫の餌やりやペットの糞の持帰りについて、啓発を行う。 アパートや共同住宅を建設する場合は、ごみ集積場所の利用や設置について協議会への事前相談をお願いする。 自治会町内会と連携し、カラス対策や美観対策として蓋付きごみ置き場を設置する。 分別がされていない集積場所や、不法投棄が多い場所については、自治会町内会と連携し防犯カメラの設置を行う。 	◎	◎

〈3〉多様な交流が生まれる地域(豊かなコミュニティの形成)

10

プロジェクトシート No.	地域の課題	地域主体で取り組む方策	緊急性 重要性	期間 可能性 実現性
挨拶のできるまち プロジェクトシート 7	・住民同士の意識や繋がりが薄くなっている	①児童登校時の見守りや声掛けなどで挨拶運動を始める。 ②挨拶を奨励する「あいさつロード」を定め、地域全体に分かりやすい啓発を行う。 ③多世代が参加するイベントを増やし顔が見えて挨拶が出来る場を増やす。 ④既に実績のある「地域支え合いマップ」を地区全体に拡大し作成する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
新住民との交流 プロジェクトシート 4	・新住民との接点が少なく、交流が生まれにくい。	①まちの一員として歓迎し、地域活動の紹介や参加を促す「ウェルカムパッケージ」を発行する。 ②新住民がまちに親しめる工夫として、地域活動の中で役割を担ってもらう。 ③新しい住民の情報や活躍をニュース等で紹介する。 ④新住民と協力しながら参加しやすいイベントを企画運営していく。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
地域資源への理解を図る プロジェクトシート 1	・羽沢横浜国大駅が新設され2020年3月に相鉄線とJR線、2023年3月に相鉄線と東急線の相互乗り入れが実現し乗降者も増加しているが、横浜国立大学の最寄駅にもかかわらず横浜国立大学までのルートに案内板が無くわかりづらい。単なる案内サインだけではなく地域に「愛着を育てる」為の一環として、地域内の道や坂に名称をつけたり、歴史や特産品を紹介する等、幅広く取り組んでいる。	①地域の愛着を育てることを目的に、地域住民から坂、道の名前を募って決めた「坂・道名称サイン」を、土地所有者と調整し設置・維持管理を行う。.....設置個所:地域内の57ヶ所 ②町の歴史や、特産品を紹介する歴史・特産品紹介サインについて、土地所有者と調整し設置・維持管理を行う。.....設置個所:常盤台地区4ヶ所、羽沢地区2か所 ③羽沢横浜国大駅利用者が横浜国立大学等の周辺施設に訪れやすいような地図付サインについて、土地所有者と調整し設置・維持管理を行う。.....設置個所:羽沢横浜国大駅前1か所 ④地域の中学生の作品を展示し、通る人を和ませる「展示用ギャラリー」について、土地所有者と調整し設置・維持管理を行う。.....設置個所:羽沢横浜国大駅前と横浜国立大学西門周辺の2か所	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
居場所づくり (地域力を高める)	・近隣の商店が少なくなってきた。 ・羽沢横浜国大駅や相鉄線各駅方面へも遠く、しかも坂道が多く出かけにくい。	①日常における様々な暮らしのシーンについて情報交流ができる場をつくる。媒体(ニュースや瓦版、SNS)を発行する。 ②Café、子供(地域)食堂などを設置するために、地域の中の空室、空家等の情報を共有し、必要な人に紹介できる仕組みをつくる。また、誰でも立ち寄れる楽しい場所を整備する。	○ ○ ○ ○	
ベンチの設置	・散歩の時などに休憩できるベンチ(休憩所)がない。 ・バス停にベンチがなく、不便である。	①公園や広場、小さなオープンスペースについて、土地所有者と協議を行い、承諾がとれた場合にはベンチの設置・維持管理を行う。 ②セットバックを伴うバス停留所の待機スペース確保とベンチの設置について、土地所有者やバス事業者と協議を行い、承諾がとれた場合にはベンチの設置・維持管理を行う。	○ ○ ○ ○	
子育てを応援する	・大学生など多世代が交流できる場所や仕組みが少ない。 ・子育て世代が地域活動に参加しづらい。 ・保育園や子育て支援施設が少ない。 ・子供の遊び場、遊具が少ない。 ・子供、子育て向けサインが欲しい。	①横浜国立大学や各自治会・町内会と連携し、共同で行える多世代参加イベント(祭り等)や集える場所を増やす。 ②子供たちが地域に愛着を持てるような子供向けのサインの設置を検討していく。 ③子育て応援カフェの様な居場所づくりに取り組む。	○ ○ ○ ○	

	地域の課題	地域主体で取り組む方策	緊急性 重要性	期間 可能性 実現性
横浜国立大学生の 地域活動 参加促進	<ul style="list-style-type: none"> 学生が多く住んでいるが地域活動への参加は少ない。 自治会・町内会等の祭りやイベント情報が学生には届いていない。 	<p>地域活動に参加することで得られるメリットを発信する。</p> <p>①地域の人と知り合いになり生活しやすい。</p> <p>②祭りやイベントの企画・運営の主役になれて、人生のスキルアップにつながる。</p> <p>③地域に対する「愛着」が生まれ、まちのサポーターになる。</p> <p>④自治会・町内会での活動、報告等、SNSや大学内の掲示板で紹介する。</p> <p>⑤横浜国立大学の中に地域活動紹介コーナーや自治会・町内会の掲示板を設置する。</p>	◎	◎
隣接している メリット	<ul style="list-style-type: none"> 横浜国立大学の近くにあるにも関わらず、フィールドワークや実証実験の場として活用される機会が少なく、メリットを生かしきれてない。 地域の多世代の教育の機会を生かせる位置にあるが、教育学部との連携は多くない。 留学生との交流が限られている。 地域社会と大学全体の公式なつきあいも大切であるが、教授(研究室)や学生と個人的な繋がりが出来ることで継続性が生まれる。 	<p>①大学と連携し保土ヶ谷区、神奈川区内の地域のまちづくり資源や資料をアーカイブ化し情報を発信する。</p> <p>②地域まちづくりに取り組んでいる研究室やサークル活動の域を超えて実績を残している「ハマノ屋台プロジェクト」「アグリッジプロジェクト」「YUC(YokohamaUniver-City)」他との連携をさらに深める。</p> <p>③学生による「寺子屋」を羽沢・常盤台地区でも開催できるように連携する。</p> <p>④「コミュニティビジネス」や地域の「居場所づくり」について学生のスタートアップの応援をする。</p> <p>⑤留学生が興味関心のある地域の文化や伝統に触れられるよう、地域の祭りやイベントに参加してもらえる様な取組をする。</p> <p>⑥多くの留学生(約1,000人)との交流の機会を増やし、「地区の国際交流」を促進させる。</p> <p>⑦羽沢横浜国大駅前に開設される「地域実践教育研究センター」を通して、日常的な交流を行う。</p>	◎	◎

プロジェクトシート

プロジェクトタイトル サイン設置計画

1

サイン プロット地図

プロジェクトの目的

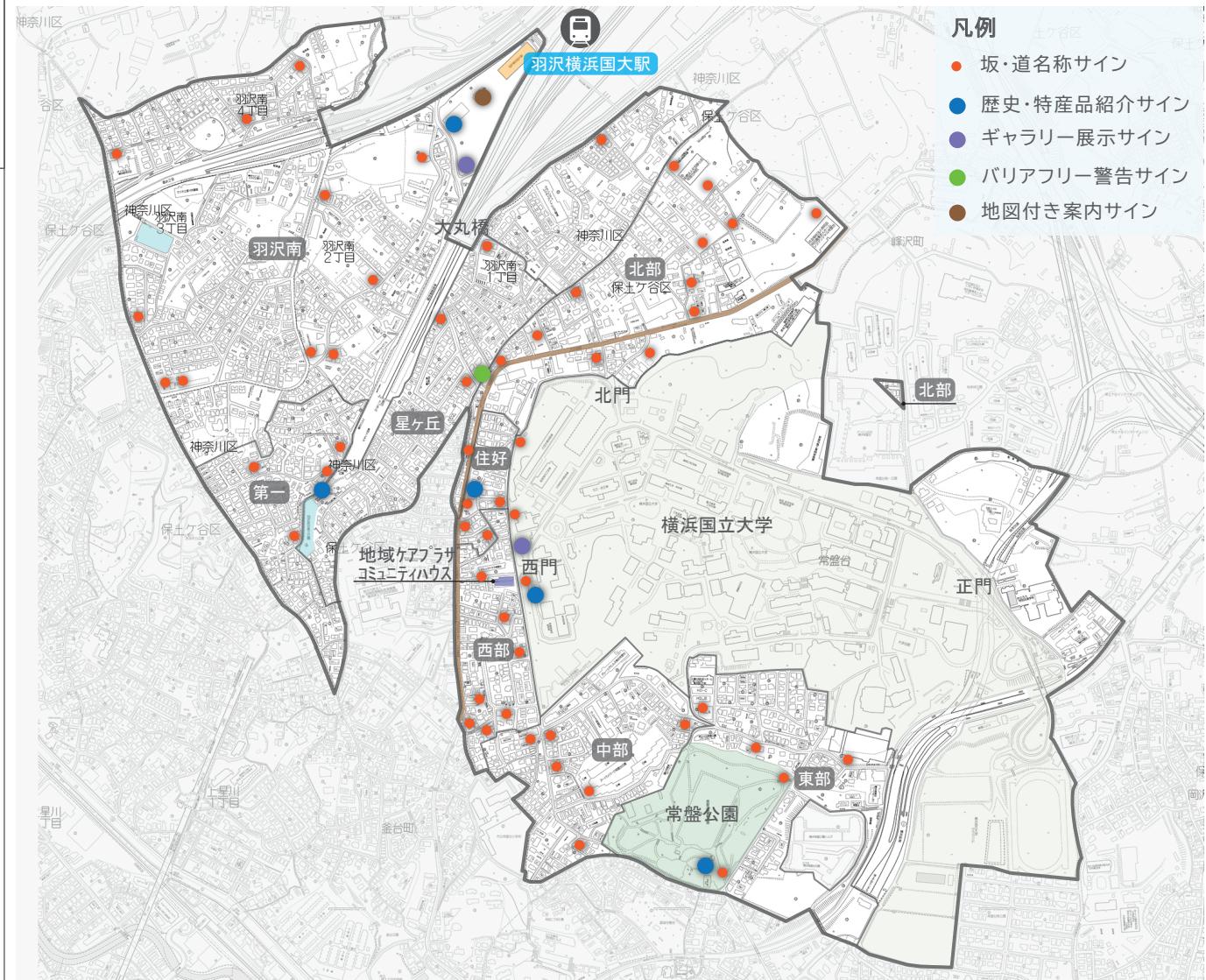
- ・駅を利用する来訪者向けの道案内や地域の魅力紹介。
- ・地域の住民向けには、地域の魅力再発見や地域への愛着を育むことを目的とする。
- ・防災関連施設やバリアフリー・危険な場所等の周知を狙いとする。

プロジェクトの内容

- ①住民により「坂・道の名称」を決めてサインを設置する。
- ②町の「歴史や特産品を紹介するサイン」を設置する。
- ③羽沢横浜国大駅～横浜国立大学周辺まで訪れやすいよう「地図付き案内サイン」を設置する。
- ④地域の小中学生の作品を展示する「ギャラリー展示サイン」を設置する。

以上のサインを計画・設置し維持管理を行う。

◆サイン例(イメージ)



凡例

- 坂・道名称サイン
- 歴史・特産品紹介サイン
- ギャラリー展示サイン
- バリアフリー警告サイン
- 地図付き案内サイン

プロジェクトタイトル
ブロック塀

2

プロジェクトの目的

- ・高いブロック塀は地震時に倒壊する恐れがあり、避難路を塞ぐ可能性がある。また、交差点の場合は見通しも悪くなり危険度が大きくなるため、ブロック塀はなるべく低くし、上部は比較的見通せることで防犯力UPを図る。

プロジェクトの内容

ブロック塀は3段までとし、上部はフェンスや植栽などの軽い塀とする。
その他、ネットフェンス、目隠しフェンス、垣根等も推奨する。



改修例①ガラス



改修例②木柵



改修例③垣根



プロジェクトタイトル
門灯・防犯灯・防犯カメラ

3

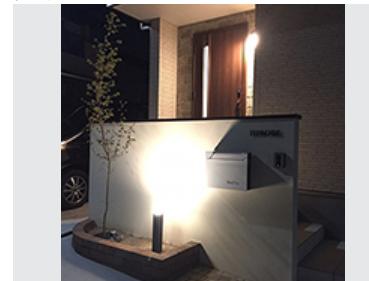
プロジェクトの目的

- ・地域の防犯力の向上の為、夜の道路や公園などを明るくする。
- ・防犯パトロールを強化し、地区の安全性を向上させる。
- ・危険性の高い場所の防犯性を高める。

プロジェクトの内容

門灯：道路に面した部分に設置、点灯をお願いする。
防犯灯・防犯カメラ：自治会・町内会と連携し、暗い場所を解消する。

門灯



防犯灯



防犯カメラ



防犯カメラ



プロジェクトシート

14

プロジェクトタイトル ウェルカムパッケージ

4

プロジェクトの目的

- ・新しく住民となる方への「まちの案内」を纏めて伝えることで、まちへの愛着を育てる。
- ・まちの活動に参加しやすくする案内を送る。



プロジェクトの内容

自治会・町内会の案内:組織や行事などを知らせる。

ごみの案内:ごみ出しのルールを知らせる。

まちづくりプランの案内:まちづくりに興味を持ち参加しやすくする。

自治会・町内会案内(掲示板)



まちづくりニュース



ごみの案内



お祭りへの参加案内



子どもの居場所案内



高齢者の居場所案内



イベント・交流案内



子育てのコミュニティ案内



まちづくりワークショップの風景



プロジェクトタイトル 事前協議

5

プロジェクトの目的

- ・建築の前に計画内容をお知らせいただき、地域まちづくりプランに関する協力ををお願いすることで、まちづくりプランを周知、実現していく。

プロジェクトの内容

建築やリフォームを予定している場合は事前に協議会に協議書を提出してもらい、まちづくりプランに即した内容となるようお願いする。

羽沢横国まちづくり計画 協議書

令和 年 月 日

羽沢横国まちづくり協議会長

事業者 住所
(建築主) 氏名
電話
代理人 住所
氏名
電話

横浜市地域まちづくり推進条例第11条第5項により、次の計画について次の通り協議します。				
計画概要				
建築場所	横浜市 区			
建物名称 (工作物)		面積 m ²	建築面積 延床面積	m ²
敷地面積				m ²
階 数	地上	階・地下	階	構 造
最高高さ				SRC・RC・S・W・()
主要用途			駐車場 (駐輪場)	()
			台	台
			市街地環境設計制度の適用	有・無

※協議書の提出時に、計画一般図（案内図・配置図(緑化計画)・平面図・立面図）等を1部添付してください。

◆まちづくり協議会協議事項◆

- 工事中の留意事項（工事時間、工程、工事車両駐車等）
- 共同住宅のごみ置き場設置
- 新設ブロック塀のフェンス化（防災対策）
- 後退した部分の道路利用
- 緑化の推進
- 公共的な要素の高いベンチの設置やサイン設置の協力
- イベント・交流案内への入会
- 門柱や外構への照明器具の設置や点灯のお願い

協議済み日

上記の計画については、次のとおり協議を行いました。

羽沢横国
まちづくり協議会

プロジェクトシート

プロジェクトタイトル 緑化の促進

6

プロジェクトの目的

- ・樹木や花壇、プランターを設置することにより豊かな街並みを目指す。
- ・地区の特徴である豊かな緑や畠の風景を大切にする。
- ・高台の立地を活かし風景を守り育てる。

プロジェクトの内容

- ①地区内に連続した緑を作り出すため、土地所有者へ道路側の敷地部分の緑化についてお願いする。



- ②地区全体に花や香りを楽しめる樹木を植えたり、プランターを設置することを啓発する。



- ③畠の景観やシクラメン通り等、特徴のある通りを大切に守り育てるため、啓発活動を行う。



- ④緑が豊かな場所、高台で眺望の良い場所について、土地所有者等と協議を行い、富士山の見える場所等をベンチのある憩いの場として整備・維持管理を行う。



- ⑤地域で行っている「ありが隊」や剪定業者等の紹介など、民地の庭木の適切な管理について啓発を行う。

「ありが隊」:常盤台地区で行われている地域の軽作業をしているボランティア組織

プロジェクトタイトル 豊かなコミュニティの形成

7

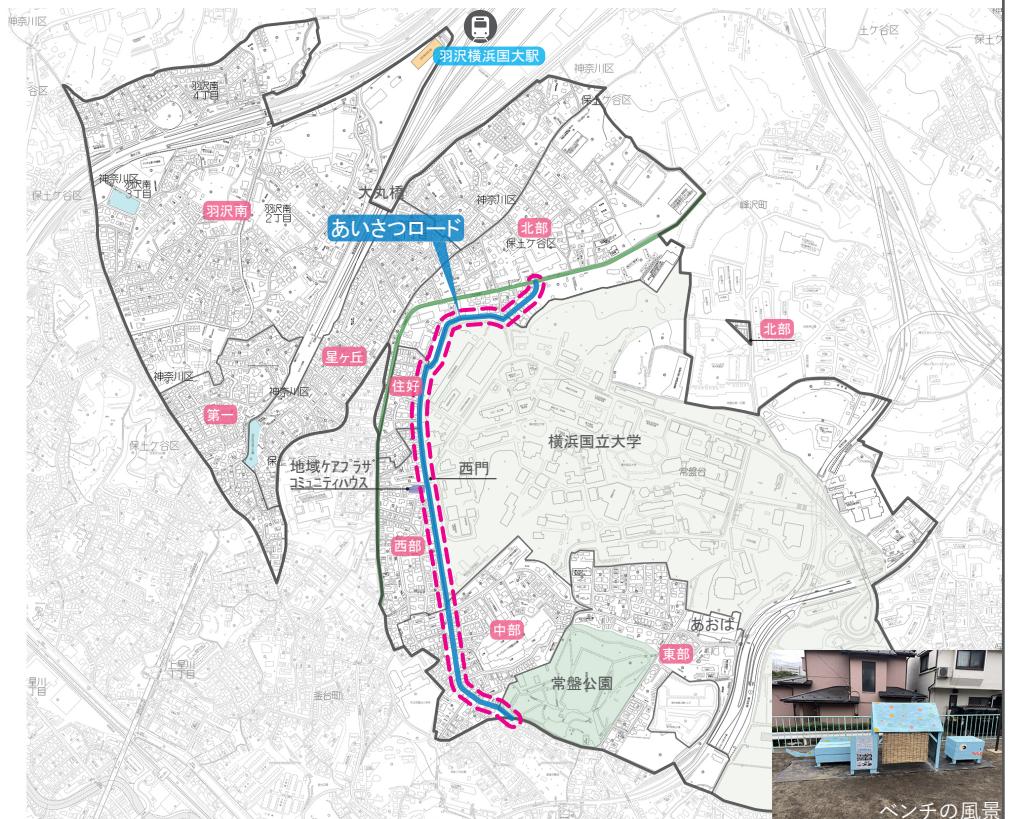
プロジェクトの目的

- ・住民同士の意識を大切にするため「あいさつ」や声掛けが出来るまちを目指す。

プロジェクトの内容

- 地域内にあいさつロードを設定する

景色が楽しめる場所や坂道の途中など道路沿いの民有地にベンチを設置する。



〈羽沢横国まちづくり協議会 活動年表〉

平成20年(2008年) 8月 「常盤台地域ケアプラザを契機とした老後も住み続けられるまちづくりワークショップ」スタート

平成21年(2009年) 10月 常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス開所

令和1年～令和4年 5月 「羽沢横浜国大駅周辺地区バリアフリー基本構想」作成

令和1年(2019年) 11月 「羽沢横浜国大駅周辺地域の愛着を育てるサインづくり推進会」発足
11月 羽沢横浜国大駅開業

令和2年(2020年) 1月 「羽沢横浜国大駅周辺地域の愛着を育てるサインづくり推進会」総会
3～6月 新型コロナ感染症対策で活動休止
8月 地域の歴史勉強会、坂・道アンケート調査
9月 第43回ワークショップ(街の歴史や特産品紹介サイン)
地域まちづくりニュースNo.1発行(以降、年2～3回発行)
10月 アンケートを基に各自治会で坂・道名称決め活動
11月 第44回ワークショップ(坂・道の名称は発表とデザイン決め)
第49回横浜市地域まちづくり推進委員会傍聴参加(4名)
鶴見区市場西中町まちづくり見学会

令和3年(2021年) 3月 第45回ワークショップ(令和2年度まとめ・駅前地図とギャラリーサイン)
4月 羽沢地区南部三自治会「坂・道愛称命名」ウォーキング開催
10月 サインづくり打合せ開始

令和4年(2022年) 5月 臨時総会・グループ名称を「羽沢横国まちづくり協議会」に変更する
第49回ワークショップ開催「まちを歩いて椅子を置く場所を考えよう」
8月 羽沢横国まちづくり協議会ロゴマーク決定
夏休みワークショップ「イスづくりDIY」開催
まちづくりプラン課題調査アンケート配布
11月 南永田天王台連合町内会「道の愛称プロジェクト活動」見学会
12～2月 第1回地域まちづくりプランアンケートキーワード意見交換会(3回開催)

令和5年(2023年) 3月 地域まちづくり推進委員会オブザーバー出席(3名)
6～12月 地域まちづくりプラン素案づくり開始
8月 第56回ワークショップ(遊べる椅子づくり)開催
11～12月 地域まちづくりプラン素案アンケート案の検討

令和6年(2024年) 2月 プラン素案・アンケート住民へ配布
10月 地域まちづくりプラン決定

〈 坂・道の名称地図(常盤台・羽沢地区) 〉

17

羽沢まちづくりプランの発端となった、「サインづくり推進会」で坂や道路に住民で
サインを作りこの地域に愛着を育み、安心・安全で歩いて楽しいまちづくりに取組む事になりました。
名称は住民の皆さんアンケートにより決められ、地域の歴史や名産品の紹介サインも提案されました。

